

強い意志

先 日、映画「ハゲタカ」を観てきました。この映画は、企業買収を舞台として繰り広げられる様々な人間模様が描かれた作品で、何年か前にNHKで放映され大ヒットしたテレビドラマをベースに、その続編のような形で映画化されたものですが、筆者はドラマのモチーフになった小説「ハゲタカ」・「ハゲタカ2」を読んで以来この作品のファンになり、これまで何度となく読み返してきていたところでした。

作 品の中で描かれる、徹底した競争原理のもとでのしごを削りあう登場人物たちの価値観や世界観は、公共の福祉の増進を目的とした筆者の仕事の価値観や世界観とは共通点が見出しにくいですが、様々な葛藤を持ちながらもその価値観や世界観を背景に、成すべきことを成そうとする登場人物たちの強い意志や姿勢に、改めて多くの感銘を受けました。

三 浦市の財政状況が厳しくなってから久しくなりますが、そのような状況は行政運営のあらゆる局面に影響を与えており、そこで生まれる行政課題を解決していくために職員一人ひとりが担うべき役割も大きくなってきています。

そ の役割を全うしていくためには知識や技術が必要不可欠であり、これを体得するには日々の自己研鑽が必要であることは言うまでもありません。ただ、決して根性論を唱えるつもりはないのですが、身につけた知識や技術という武器を厳しい行政運営の局面で最大限有効に活かせるかどうかは、映画の登場人物のよう

な「成すべきことを成そうとする強い意志」を持てるかどうかにかかっているのではないかと



感じます。

「映 画はあくまでも虚構の世界で、現実は・・・」とってしまうのは簡単なことですが、困難な課題と向き合い、これを解決することが叶ったときに感じる達成感は映画も現実も共通のものであります。そしてその達成感はず次のステップへとつながるものです。

逆 風は続きますが、久しぶりに見た映画のおかげで感じる事が出来た気持ちを大切にすするためにも、風下に立っても負けない強さとたくましさ自らに求めながら業務に当たっていきたいと思います。



(財政課 鷲阪 慎太郎)

暴論オピニオン (26)

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。



過程の重要性

皆さんはご自身の目標までの道のりをどのように考え、どのように歩いていくのでしょうか。

目標達成までの過程について、民と官の考え方を比較した場合、民は目標達成を最優先し、そのためにはあらゆる手段や方法を選択しようと考え、その過程や手続きの正当性にはあまり比重を置かないが、官は適正な手段、方法がとられたかどうかには比重をおくことが多く、そのためのエネルギーや時間が多く費やされていることが多い。その結果、対応が遅かったり、会議に多くの時間を費やしたり、方針転換の時期を逸したり、大胆な発想が生まれにくい土壌になっている。(決して、目標達成



を軽視している訳ではないが。)

よく市民から、「なぜ、そんな手続きが必要なの!」、
「もっと簡素化できないの!」と言われることがあると思
う。

過程を重んじる職員にとっては、
これまでの方法を踏襲したり、
国県の方針どおりに取り
組んだり、新たな試みを
避けたりする方がよりリスク
が少ない。当然、大きな失敗の
可能性も少ない。

一方、過程にこだわりすぎ
ることが、新たな試みを行おうとする阻害となっている場
合もある。自分自身が新たな手段や方法を生み出すこと
は、多くのエネルギーや時間を要求されるため、取り組
もうとする意欲さえなくしてしまうことも多い。

本年、三浦市が進める「みうらシティ・セールスプロモ
ーション」が日本観光協会主催の「優秀観光地づくり賞」
の金賞・総務大臣賞を獲得した。県内では初の受賞で
あり、「市民による住んでよし訪れてよしのまちづくりが行
われている点」が評価された結果であるが、裏方として
2004 年度に新設された経済振興部営業開発課が、観
光客誘致のためにさまざまな取り組みを最前線で行って
きた功績が大きい。同課は、目標達成までの過程や手



続きの正当性より現場のニーズを優先させ、さまざまな
ツアーのアイデアを企画し、三浦市営業マンとして積極
的に旅行会社に売り込みを進めてきた。(営業開発課
HP <http://www.miurastyle.jp/>)

営業開発課の功績は、常に目標達成を第一に考え、
現場のニーズや状況の変化に柔軟に対応してきた結果
であると感じている。

過程や手続の正当性
よりも目標達成
に重きをおこう

ではないか、過程に
こだわりすぎるあまりに
そのまま停滞している

失敗よりも、目標達成を目指したうえでの失敗のほうがま
だましではないか。



次号(第36号)は7月16日発行です。

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎
弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こ
せえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は
「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。



三浦市長の吉田ひでおです。今回の市長選(6月14日告示)において、再選をさせて
いただきました。無投票であったことを真摯に受け止め、初心を忘れることなく2期目に
臨みたいと思います。

1期目(平成18年6月から21年6月までの4年間)は、「あったかいまち」、「ロハス」、
「3つのS」という3つキーワードを基本理念として、市政執行に取り組んで参りました。

この理念に基づき、職員数削減やアウトソーシングなどの行政改革を断行し、シティ
セールスは、これまでの三浦市のさまざまな活動が評価され、(社)日本観光協会による
「優秀観光づくり賞」の金賞・総務大臣賞を受賞させていただくなど、地道な努力により着
実に成果をあげてきたと自負しています。

しかし、現在も二町谷埋立地の活用や市立病院経営改革など、課題が山積している
のも事実です。財政状況の厳しい本市において、さまざまな困難が想定されますが、大
きな課題に正面から向かい合う決意をもって、豊かな明日、元気で魅力的な三浦市をつ
くするため、まい進していく必要があると思っています。

前述した3つのキーワードは、私にとってゆるぎない理念であり、市政執行の目標で
す。これからも、市民にとって「あったかいまち」、「ロハス」な魅力で選ばれるまち、「3つ
のS」で高効率・高性能の財政体質を、市政執行に関する基本姿勢とし、一步一步確実
に進んでいきたいと考えています。